

## 第 1 回 豊明市立地適正化計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成 31 年 2 月 18 日（月）13：30～16：00		
場 所	豊明市役所 東館 1 階 会議室 4		
議事骨子	1. あいさつ 2. 立地適正化計画策定委員会の委員委嘱について 3. 委員長及び職務代理者の選出について 4. 委員会の運営について 5. 議題 (1) 立地適正化計画の概要について (2) 豊明市の現状と課題について (3) 方針の検討について 6. その他		
配付資料	・ 次第 ・ 資料 1 豊明市立地適正化計画策定委員会名簿 ・ 資料 2 豊明市立地適正化計画策定委員会設置条例 ・ 資料 3 立地適正化計画の概要 ・ 資料 4 豊明市立地適正化計画（検討資料）		
委員 ■出席 □欠席	○12 名中 11 名出席		
	所属	氏名	
	■ 名古屋学院大学 現代社会学部長 教授	井澤 知旦	
	■ 社会福祉法人豊明市社会福祉協議会 会長	加藤 誠	
	■ 豊明市商工会 事務局長	浅田 利一	
	■ 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 計画課長	豊田 信昭	
	■ 名鉄バス株式会社 運行課長	吉岡 実	
		代理 運行課 久松 勇輝	
	■ 独立行政法人都市再生機構中部支社 都市再生業務部次長	土田 公生	
	■ 学校法人藤田学園 藤田医科大学教授 地域連携教育推進センター長	石原 慎	
	□ 学校法人桜花学園 名古屋短期大学准教授	小島 千恵子	
	■ 愛知県建設部都市計画課 課長	片山 貴視	
		代理 課長補佐 伊藤 俊司	
	■ 愛知県尾張建設事務所 企画調整監	林 克生	
	■ 豊明市行政経営部長	藤井 和久	
	■ 豊明市市民生活部長	石川 晃二	
事務局	部署	職名	氏名
	経済建設部	部長	相羽 喜次
	経済建設部	部次長	若林 博志
	都市計画課	課長	近藤 潔
	都市計画課	計画建築係 係長	北川 宜志
	市街地整備課	課長	宇佐見 恭裕
	市街地整備課	市街地整備係 係長	松本 裕介
	市街地整備課	市街地整備係 主査	野村 和義
	市街地整備課	市街地整備係 主事	池村 貴司
	豊明市市街地整備アドバイザー		河北 裕喜
	その他（玉野総合コンサルタント株式会社）2 名		
傍聴者	なし		

## 1. あいさつ

坪野副市長 日頃は市政にご理解とご協力ありがとうございます。  
平成 26 年の都市再生特別措置法の改正に伴い創設された立地適正化計画について、本市でも今年度から 2 カ年で策定することになり、みなさんにはお忙しいなか委員への就任ありがとうございます。それぞれの専門分野での活発な議論をお願い申し上げます。よろしく申し上げます。

## 2. 立地適正化計画策定委員会の委員委嘱について

※坪野副市長から代表で井澤委員に委嘱状を交付し、その他の委員については机上配布により委嘱状を交付した。

## 3. 委員長及び職務代理者の選出について

事務局 設置条例第 5 条にありますように、委員長は委員の互選により定めることになっております。どなたかご意見ありませんか。

土田委員 学識経験者の井澤委員を推薦します。

事務局 只今、土田委員から井澤委員をというご意見をいただきましたが、他のみなさん、いかがでしょうか。  
(異議なしの声)

事務局 井澤委員、いかがでしょうか。

井澤委員 わかりました。

事務局 委員長は井澤委員にお願いさせていただきます。  
続いて、委員長の職務代理者ですが、設置条例第 5 条に、委員長が指名するとあります。井澤委員長にご指名いただきたいと思います。

井澤委員 それでは、豊明市社会福祉協議会の加藤委員にお願いしたいと思います。

事務局 加藤委員、委員長よりご指名がありました。お請けいただけますでしょうか。

加藤委員 わかりました。

事務局 他のみなさん、いかがでしょうか。  
(異議なしの声)

事務局 職務代理者は加藤委員にお願いさせていただきます。  
それでは、お二人には一言ずつあいさつをお願いしたいと思います。

井澤委員 立地適正化計画では、どのように住まうかということが問われている。そこを念頭に計画を検討していきたいと思います。よろしく申し上げます。

加藤委員 豊明市内で土地区画整理事業に関わってきました。その経験をもとに、この計画に関わらせていただきます。よろしく申し上げます。

## 4. 委員会の運営について

※会議の代理出席、会議の傍聴、議事録の扱いについて事務局から説明し、特に質疑なく認められた。

## 5. 議題

### (1) 立地適正化計画の概要について

#### ※資料説明及び質疑応答

委員長	立地適正化計画の背景と目標を説明いただきました。何か意見質問をお願いします。
委員	DIDの意味と策定スケジュールの表の中の①②の数字は何を意味しているのか。
事務局	DIDは人口集中地区という意味で、定義で言いますと1㎢あたり4,000人の調査区が隣接し、合計5,000人以上となる地域を指します。 ①②は各会議、策定委員会、作業部会の開催回数です。
委員長	都市のスポンジ化という言葉があるが、コンパクトシティの概念に入るものなのか。
事務局	既成市街地の中に空き家・空き地ができてスペースができることと考えます。その対応として、豊明市では空家等対策計画を策定し、取り組みを進めております。この計画の中でも中心部の空き家・空き地について、どのように土地利用を進めていくのかを含めて検討していきます。

### (2) 豊明市の現状と課題について

#### ※資料説明及び質疑応答

委員長	他都市との比較により本市が抱える課題を説明していただいた。意見質問はありますか。
委員	空き家のデータがありましたが、空き家の定義はどうなっているのか。空き店舗も入るのか。都心部の空き地をどうするのか方針があるのか。また、市が進めている空き家対策について教えてください。
事務局	空家等対策特別措置法に基づき調査・対策を行っておりますので、空き地は含まれておりません。また、平成28年に実施した調査は、対象が一戸建て住宅のみとなっております。店舗は入りません。ある程度調査対象を絞った上で抽出調査しているため、実質よりは少ない結果になっています。
委員	3つあります。1つ目は、都市計画マスタープランの将来人口と、検討資料にある国立社会保障・人口問題研究所の将来推計との関係はどう考えるのか。2つ目は、カバー率を算出する際の徒歩圏の範囲の考え方は。3つ目は、浸水想定区域がある豊明駅近くは、誘導区域としてどうしていくのか。
事務局	都市計画マスタープランの将来人口に対して、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口は下回っています。 利便性の高い地域で新市街地の土地区画整理事業により人口を増やしたいと思っています。都市計画マスタープランの将来都市構造図の居住ゾーンは市街化区域と今後編入する区域を想定しての区域であります。P2-3の将来人口は、このまま推移した場合の傾向を示しており、考え方が違うものになります。 徒歩圏の考え方は、国の示す都市構造の評価に関するハンドブックで定められた距離になります。 来年度の検討になりますが、浸水想定区域など災害のおそれがある地域は居住誘導区域から外すということも考えられます。

委員長 事務局	この計画の中で将来人口の数値は最終的に出すのか 都市計画マスタープランでは 71,000 人となっています。本計画で人口推計をして目標値を示すかどうかも含めて今後検討していきます。
委員長	商業施設について、ドラッグストアは入らないのか。最近はドラッグストアで食料品も買えるようになってきている。参考として入れておいてもいいかなと思う。
委員	都市構造評価について、公共交通以外はカバー率が高いが、人口密度からいうとそうでもないということとなっている。人口密度からまだまだ誘導していくという認識であるのか。
事務局	人がいないところに商業施設があり、車移動で利用している、そのため人口密度が低いということになっています。今後は徒歩圏内に商業施設があるほうが良いというのがこの計画の考え方です。
委員	カバー率よりも人口密度を重視するということか。
委員長	この計画ではそういうことだと思う。
委員	評価もある程度良く、このままでよいのではないかと感じてしまう。もっと課題が見えるような現況把握の仕方をしたらどうか。
事務局	もう一つ気になるのは、P2-5 の図 2-10 で生産年齢人口が転出しているということが示されている。まちの構造として要因があるのであれば、もう少し分析が必要だと思う。子育て世代が新たに住む宅地が少ないため、周辺市町に流出していると考えています。県内の市町村と比較して、市街化区域内の人口密度は県下 2 位と高く、空き家率も高くないため、新たに住む場所がないという状況ですので、新市街地の土地区画整理事業を検討しています。
委員長	豊明市はある程度コンパクトであるため、課題の切り口をもう少し考えたらどうか。
委員	豊明市の問題は、地域で人口の偏りが激しいことである。市街化区域内で人が多いところと少ないところをどうするのがポイントである。

### (3) 方針の検討について

#### ※資料説明及び質疑応答

委員長	意見等いかがですか。
委員	誰を誘導するのが分かりにくい。新しい子育て世代を呼び込むというイメージなのか。
事務局	新しい子育て世代の誘導を考えています。また、それだけでなく、既に住んでいる方々の居住環境も整えて行きます。
委員	骨格構想について、中京競馬場前駅や豊明駅は拠点としては位置づけないのか。この 2 つは都市計画マスタープランの中だけでの話なのか。
事務局	2 つの駅は重要な拠点と認識しています。ただ、中京競馬場前駅は、周辺の道路は幅員が狭く住宅が立ち並んでいます。また、豊明駅は市街化調整区域という状況であります。地域の特性を見ながら都市機能を整えていくというイメージです。 この 2 つを拠点とするのかは今後の検討です。
委員	公共交通のネットワークがポイントになる。歩いて暮らせるというのもまちづくりとして必要だと思うので、歩道や自転車道を充実することで居住環境が向上すると思う。

委員 ひまわりバスは北部の市街化調整区域のバス停を減らし、市街化区域内での便数を増やすことで利便性を高めた。市街化調整区域ではチョイソコを運行して、利便性を確保する方針である。

委員 目標（案）はこの委員会での意見によって変わる可能性があるのか。

事務局 皆さんのご意見により変わります。

委員 日進市、長久手市のように若い世代が来るようになったら良いと感じる。

委員 若い世代を誘導する具体的な方法はどのようなのか。どの市町も若い世代が減っていくなかで、どうやって豊明市に呼び込むのか。

委員 人口減少するなかで、今後公共施設等のインフラの維持・改修にお金がかかると思う。

委員 評価として、他市町の平均を上回る結果は出ているが、実際の豊明市は高齢者が増えている。道路によっては、高低差が激しく歩くもの大変で、買い物難民も出ている状況である。2次元だけでなく、3次元の視点も入れると良いと思う。

委員 市街化調整区域は切り捨てられるのかと思われてしまわないか心配である。また、若い世代の市外からの誘導というより、今いる若い世代が流出しないような施策を打つ必要があるのではないか。

委員 いかに仕掛けるかが一番の目的かと思う。日進市、長久手市には公共用地があり、必然的な土地区画整理事業によって発展してきた。豊明には公共用地がない。このような特性を考えながら、住みやすいまちが目指せればと思う。もう少し、現場を見た上で、検討すると議論が深まるのではないか。

委員長 誘導方針は5つ定められているが、人が見えない。もっと人が見えるような計画となるようにならないかと思う。長久手市では、市民にまちづくりを積極的に考えさせ、お金を投資している。それから、目標（案）のコンパクトシティは一般の市民には理解されないと思う。

今回は現状を詳しく説明していただきましたので、次回は方針を含め、中身を議論していきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。

## 6. その他

事務局 本日はありがとうございました。今年度の委員会はこれで終わりとなります。来年度は3回の開催を予定していますのでよろしくをお願いします。

以上